

2-2 第28回BELCA賞について

(1) 第28回BELCA賞の受賞建築物

第28回BELCA賞については、平成30年5月～7月の間に募集され、表－4の第28回BELCA賞選考委員会による厳正な選考の結果、表－5のロングライフ部門5件及びベストリフォーム部門5件の計10件が選定され、平成31年2月公表された。

これにより受賞建築物の件数は第28回までで、ロングライフ部門125件、ベストリフォーム部門151件の計276件を数えている。

表－1 第28回BELCA賞選考委員会

委員長	内田 祥哉	(東京大学名誉教授)
委員長代理	三井所清典	(㈱アルセッド建築研究所・芝浦工業大学名誉教授)
副委員長	鎌田 元康	(東京大学名誉教授)
副委員長	深尾 精一	(首都大学東京名誉教授)
委員	大田 保之	(日本メックス㈱)
委員	箆島 亮	(㈱山下設計)
委員	小笠原 孝	(㈱きんでん)
委員	北 典夫	(鹿島建設㈱)
委員	倉田 昌典	(高砂熱学工業㈱)
委員	河野 晴彦	(大成建設㈱)
委員	丸山 裕弘	(三井不動産㈱(三井不動産TGスマートエナジー㈱代表取締役社長))
委員	水川 尚彦	(㈱安井建築設計事務所)

(順不同、敬称略、所属は平成31年2月時点)

表ー2 第28回BELCA賞表彰建築物(順不同)

ロングライフ部門

表彰建築物名	所在地	竣工年	用 途 (現在)	
	所有者	設計者	施工者	維持管理者
1 霞が関ビルディング	東京都千代田区霞が関3-2-5	1968年	事務所、飲食店舗、駐車場他	
	三井不動産㈱、一般社団法人 霞会館	三井不動産㈱(新築)、 ㈱山下寿郎設計事務所 [現 ㈱山下設計](新築)、 ㈱日本設計(改修)、 鹿島建設㈱(改修)、 三井デザインテック㈱(改修)、 ㈱KMG建築事務所(改修)	鹿島建設㈱(新築・改修)、 三井建設㈱ [現 三井住友建設㈱](新築)、 三井デザインテック㈱(改修)、 ㈱エムズ(改修)	三井不動産㈱、 三井不動産ビルマネジメント㈱、 三井不動産ファシリティーズ㈱
2 サントリーホール	東京都港区赤坂1-13-1	1986年	コンサートホール	
	サントリーホールディングス㈱、森ビル㈱	㈱安井建築設計事務所、 ㈱入江三宅設計事務所、 鹿島建設㈱、㈱永田音響設計、 ㈱建築設備設計研究所	鹿島建設㈱、三機工業㈱、 ㈱きんでん	サントリーホールディングス㈱、 公益財団法人 サントリー芸術財団、 森ビル㈱、 ALSOKビルサービス㈱
3 福岡銀行本店ビル	福岡県福岡市中央区天神2-13-1	1975年	銀行(本店営業部・関連会社)	
	㈱福岡銀行	㈱黒川紀章建築・都市設計事務所(新築・改修)、 ㈱NTTファシリティーズ(改修)、 ㈱日建設計(改修)、 ㈱ジーユー・タツ(改修)、 ㈱竹中工務店(改修)	㈱竹中工務店(新築・改修)、 ㈱NTTファシリティーズ(改修)	㈱福岡銀行、 ㈱NTTファシリティーズ
4 御堂ビル	大阪府大阪市中央区本町4-1-13	1965年	事務所	
	㈱TAKプロパティ、 ㈱竹中工務店	㈱竹中工務店	㈱竹中工務店	㈱竹中工務店、 ㈱アサヒファシリティーズ
5 山梨文化会館	山梨県甲府市北口2-6-10	1966年	事務所、テレビ・ラジオスタジオ、飲食店舗	
	㈱山梨文化会館	㈱丹下都市建築設計	三井住友建設㈱	㈱山梨文化会館

※ロングライフ部門の受賞者は、所有者・設計者・施工者・維持管理者の4者です。(順不同、受賞者名等は今後変更されることもあります。)

ベストリフォーム部門

表彰建築物名	所在地	竣工年	改修年	改修前用途	改修後用途
	所有者	改修設計者		改修施工者	
1 MOA美術館	静岡県熱海市桃山町26-2	1981年	2017年	美術館	美術館
	宗教法人 世界救世教	㈱竹中工務店、㈱新素材研究所		㈱竹中工務店、㈱関電工、高砂熱学工業㈱、 ダイダン㈱	
2 春日大社国宝殿	奈良県奈良市春日野町160	1973年	2016年	美術館	美術館、倉庫
	宗教法人 春日大社	弥田俊男設計建築事務所、 ㈱城田設計、(有)オーノJAPAN、 ㈱森村設計、㈱岡安泉照明設計事務所、 Studio REGALO		㈱大林組、㈱きんでん	
3 鬼北町庁舎本館	愛媛県北宇和郡鬼北町大字近永800-1	1958年	2016年	庁舎	庁舎
	鬼北町	㈱レーモンド設計事務所		㈱増岡組、愛媛建設㈱	
4 マリンワールド海の中道	福岡県福岡市東区大字西戸崎18-28	1989年(Ⅰ期) 1995年(Ⅱ期)	2017年	水族館 (博物館相当施設)	水族館 (博物館相当施設)
	国土交通省九州地方整備局、マリンワールドPFI㈱ [PFI事業者]	㈱日建設計、大成建設㈱、㈱九電工		大成建設㈱、㈱九電工	
5 明治屋京橋ビル	東京都中央区京橋2-2-8	1933年	2015年	事務所、物販店舗、 飲食店舗	事務所、物販店舗、 飲食店舗
	㈱明治屋	(有)U.A.建築研究室、清水建設㈱		清水建設㈱、間瀬建設㈱、㈱関電工、 新菱冷熱工業㈱、日比谷総合設備㈱	

※ベストリフォーム部門の受賞者は、所有者・改修設計者・改修施工者の3者です。(順不同、受賞者名等は今後変更されることもあります。)

(2) 第28回BELCA 賞選考総評（内田委員長）

BELCA賞は、良好な建築ストックが、現代社会の中で生き生きと活用されることを目的に設けられた賞である。賞を2部門に分け、長年にわたり適切に維持保全され、今後も長期保全の計画がある模範的な建築物をロングライフ部門、社会の変化に対応したリフォームにより、見事に蘇生した建築物をベストリフォーム部門として表彰し、平成3年から昨年まで、表彰件数は266件を数えている。

BELCA賞への関心は年とともに高まりつつあるが、現代社会の中での活用には、ロングライフ部門でも設備の抜本的現代化が必要であり、逆にベストリフォーム部門では建築長寿命化に伴い、利用者達の建築物への愛着が増し、それを重んじる傾向を深めている。そこで近年は、両部門の件数をあらかじめ定めず、合わせて10件を選考することになっているが、たまたま本年はロングライフ部門5件、ベストリフォーム部門5件となった。

今回表彰されるロングライフ部門では、

- ・時代に即したハイスペック化を構築し、築50周年を迎えた日本初の超高層ビル
- ・5年ごとの改修項目のリスト化を構築した、我が国最初のワインヤード型コンサートホール
- ・竣工当初からの、地域に開かれた公開空地と軒下空間のあり方を再考した地方銀行本店
- ・古典的と言われる外観を保ちながら、知的生産性を向上させた建設会社ビル
- ・元設計を生かすために、五種類の免震改修を駆使した情報発信拠点

が入選した。

また、ベストリフォーム部門では、

- ・展示ケース同士の映り込み防止に工夫を凝らした美術館
- ・所有者、設計者、施工者が一体となって維持保全計画を策定した国宝殿
- ・創建当時の姿を守るために議論を重ね、登録有形文化財を守る意識を共有している町庁舎
- ・展示内容の刷新とともに、排水量とエネルギー量の削減に成功した水族館
- ・免震レトロフィットや設備の全面更新を行ない、外装を丁寧に保存したイタリアルネサンス様式のビル

が入選した。

これらの建築物をみると、ロングライフ部門では竣工後30年をわずかに超えたものがあるのに対して、ベストリフォーム部門では90年近いものもあり、建築年齢上からも両部門を区別するのは難しくなった。

また今回は、初めて山梨県の建築物が入選し、未だ受賞建築物を持たない地域は6県になっている。更なる全国的普及を目指す賞の趣旨から、未受賞の地域からの応募を切に期待したい。

応募作品の水準が年ごとに高まっていることは、昨年以上に感じられるが、惜しくも選に漏れた建築物については、更に充実した内容で再度の応募を期待したい。

(3) 第28回BELCA 賞ロングライフ部門評（深尾副委員長）

BELCA賞表彰件数10件の中で、今回はちょうど半数の5件がロングライフ部門での表彰対象となった。

ロングライフ部門の過去の表彰対象をみると、3割程度が戦前に建設されたものであったが、今回の表彰対象は建設年が1965年から1986年と、すべて戦後の建築物であり、特に60年代後半のものが三つ選ばれたことが特徴的である。このことは、BELCA賞創設当初の狙いに合致していると言えるのではないだろうか。

まず、1965年に建設された御堂ビルは竹中工務店の本社ビルであり、「後生に残し得るようなものを建てたい」というオーナーの建設当時の想いのままに、50年を超えた今も大阪のメインストリート御堂筋に存在している。建設当初にも最先端技術が適用されていたが、時代の変化に合わせて居ながらの改修工事が続けられてきた。近年のBCP対応工事はもちろんであるが、2016年から2018年に行われた改修では、床を抜いて吹き抜けを設け、層間のコミュニケーションの誘発を図るなどワークプレイスの改善も進めている。一方、外観については歴史のある窓形状が保たれ、全体として2040年までの改修計画が立案されているなど、まさにロングライフの建築である。

続く1966年に竣工した山梨文化会館は、丹下健三の設計による、「成長する建築」の構想が具現化された意欲的な建築である。当初の趣旨通り、建設後に大胆な増築・改修が繰り返され、docomomo（ドコモモ）による日本の近代建築百選にも選定されている。すでに七回の大規模な改修が行われているが、2015年には耐震レトロフィットが行われている。巨大なシリンダー状の特異な構造体に対する免震構造化は、極めて高度なチャレンジであるが、当初の意欲的な建築を持ち続けたいという所有者の想いが、その困難さを超えて、この建築を愛され続けられるものにしている。

1968年に建設された霞が関ビルは、誰もが知っている、高さ100mを超える日本初の超高層ビルである。半世紀を超えた今も、所有者の誇るテナントビルとしてそのブランドが維持されている。建設当初の様々な技術開発はあまりにも有名であるが、最初の試みとして、様々な面である程度のゆとりを持たせていたことが、このビルをロングライフのものとしているのではないだろうか。三次に渡るリニューアルがなされ、エネルギー消費量も大幅に低減されている。50年の間に街区全体も整備され、まさに日本を代表するロングライフビルとなっている。

福岡銀行本店ビルは、1975年に竣工した、黒川紀章設計の大胆な構成のビルであり、明快な構成によって生み出された巨大な軒下空間が、公開空地として地域に開放され続けている。2013年に、この空間をより開放的な空間とするための検討が行われて、階段がスロープに置換され、街路との繋がりが強まっている。オープンカフェの設置など、市民に親しまれるビルになったと言える。20年を超える今後の維持保全計画もしっかりと作成されており、ロングライフな建築として生き続けるであろう。

サントリーホールは、1986年竣工であり、築30余年と他の4件に比べて築年数は浅いが、この間最適な音楽空間であり続けるための努力が継続されている建築である。特に、建築と設備の設計者・音響設計者・運営管理者・施工者等による「定期的な会議体」が、ほぼ同じチームで施設と運用のモニタリングを続けていることは、特筆されて良いであろう。中長期修繕計画も五年ごとに見直され、すべての関係者から要望が拾い上げられている。その中で、改善すべき項目については改修がしっかりと行われており、今後も優れた音楽の殿堂としてロングライフであり続けるであろう。

以上のように、今回のロングライフ部門の表彰対象は、1965年から75年の間に建設されたオフィスビルが4件と、特徴的な結果となった。このことも、BELCA賞の狙いからすれば、有り得べき結果であると言える。

(4) 第28回BELCA 賞ベストリフォーム部門評（鎌田副委員長）

今回のBELCA賞ベストリフォーム部門の応募件数は前回と同数であったが、表彰に値するとして選定された件数は1件減り、①1981年竣工の美術館 ②1973年竣工の美術館 ③1958年竣工の庁舎 ④1989年竣工（Ⅰ期）の水族館、⑤1933年竣工の事務所・物販店舗・飲食店舗からなるビル の5件であり、②で倉庫等が増築されているものの、全て竣工当時から特段の用途変更などされていない建築物となった。

詳細は、この後に続く建築物ごとの選考評をご覧ください。とて、ベストリフォーム部門全体の概要を以下に示す。

①は、「古美術をより美しく見せる空間」「公開承認施設としての機能向上」「人々に愛され続ける美術館」を実現することを目的としてリフォームを行った、2003年ロングライフ部門受賞のMOA美術館である。具体的には、大広間の展示空間での展示ケース同士の映り込みの問題点を、新たに中央に設けた黒漆喰壁で解決し、展示ケースと外壁の中間に設けた中空層などによる展示ケース内温湿度環境の改善、展示ケースの常設免震化の実施、全面的なバリアフリー化などとともに、清掃を含む維持管理が極めて適切な建築物である。

②は、谷口吉郎氏の設計により建てられた春日大社国宝殿である。耐震補強・収納スペース不足の改善・設備の全面更新やバリアフリー化を行うとともに、建物正面側と裏側にそれぞれ展示ホール・倉庫を増築しているが、シンプルなプランの増築にもかかわらず、動線が大きく、しかも適切に変更されていること、これまでの鬱蒼とした木々の奥にある閉鎖的な姿から、杜の広場に面する開放的な姿へと生まれ変わった点などが高く評価された。

③は、宇和島から東へ約30kmの山間にある鬼北町の庁舎本館であり、当時実施例の少なかったHPシェルの屋根を設けた株式会社レーモンド建築設計事務所の設計監理による建築物である。改修内容は、耐震改修・雨仕舞等の問題の解消・バリアフリー化・OAフロア対応・最新情報通信設備と空調設備の全館設置・複層ガラスによる室内環境改善・トイレの男女別化など極めて一般的なものであるが、発注者である鬼北町トップのリーダーシップのもと「身の丈に合った庁舎」を目指し、働き方改革をも伴っていることに感銘を受けた。

④は、玄界灘と博多湾を隔てる砂州である海の中道のなかにあって、白い幕屋根に覆われ、貝殻の様にも見えるマリニワールド海の中道である。以前訪れた際と外観は変わっていなかったが、入ってすぐのカフェテリアを大胆にも撤去した後のエントランスホールの開放的な空間、2層分の円柱水槽を撤去して設置された、いわゆる「ししおどし」の原理の応用、1分間隔で500ℓの水を落とし込み荒波を生じさせる玄界灘水槽、子どもの目線にも配慮した展示方法などに驚かされるとともに、省エネへの気配りなどにも感心させられた。

⑤は、民間で初めて地下鉄駅と一体化して設計された現存最古の建築でもある、曾禰達蔵設計による明治屋京橋ビルである。創建以来初めてとなる今回の大規模な全面改修にあたり、関係者が中央区教育委員会学識経験者と意見交換をした上で、保存・復元・新設の範囲を的確に決定していること、道路境界まで最短430mmの中、地下1階での柱頭免震を新規に開発した納まりで施工しており、目立たない西面に9層の設備ヤードを新設し、室外機とキュービクルを集約配置していることなどについて極めて高い評価を受けたが、身障者トイレがないなど、バリアフリー面で問題があるという厳しい指摘もあった。

これらの建築物が、真に“幸せな建築”として長く活用されることを祈念する次第である。